

熊本市でつまようじタワー大会 高校生100人 耐震性競う

つまようじでタワーを作り、もの作りの楽しさと建物の耐震性について学ぶ

「第6回つまようじタワー耐震コンテスト高校生大会」が24日、熊本市西区の

崇城大で開かれた。100人を超える県内外の高校生が、耐震性に優れたタワー作りのアイデアを競った。

熊本地震によって県内では、多くの建物に被害が出た。「このような時だからこそ、建物の耐震性能に関心を高めてほしい」（主催した崇城大工学部建築学科）と今年の実施を決めた。

30センチ四方の土台の上に、つまようじと接着剤だけでタワーを組み立てるのがルール。重りをタワーに載せて振動を加え、重りの数を増やしていく。タワーが倒れるか、重りが落ちるかしたら敗退となる。高校生た

ちはタワーを円形に組んだり、短く切ったつまようじでタワーの下部を補強したりと工夫を凝らした。

真和高（熊本市中央区）1年の富田悠也さん（16）は

「作ったタワーは縦方向の振動しか想定していなかったため、ねじれた後、すぐに崩れてしまった。来年も挑戦したい」と話していた。

（国崎万智）